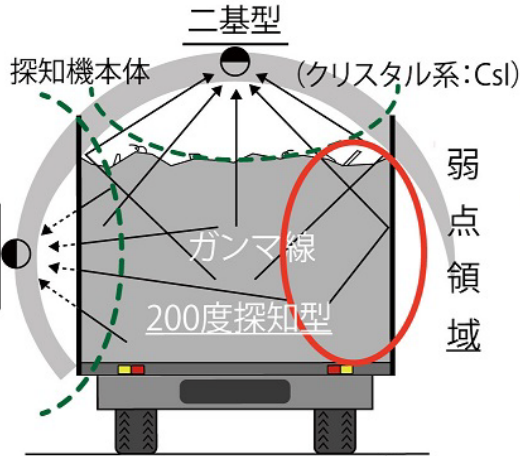


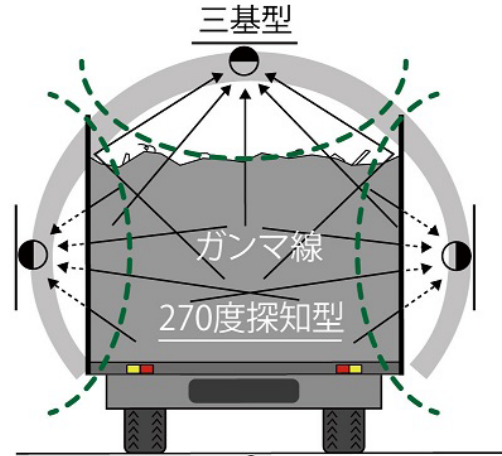
納品前製品検査用ポータブル型探知機

設置型の IPC にポータブル型探知機を接続する事で、上横二基型の弱点領域を解消することができます。



嵩比重が未だ低い (~0.5t/m³) 状態の加工前スクラップや廃棄物の検査、場所的に三基型の設置が困難な場合のヤードにお勧めします。

探知能力



嵩比重が0.5t/m³~の加工後及び製鋼メーカー納入前や外国への輸出入のスクラップ、廃棄物の検査にお勧めします。

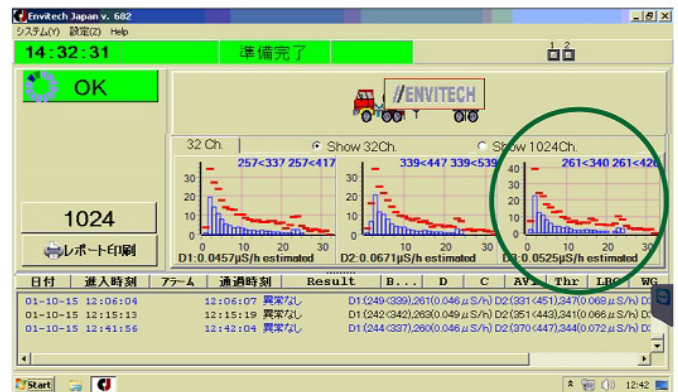
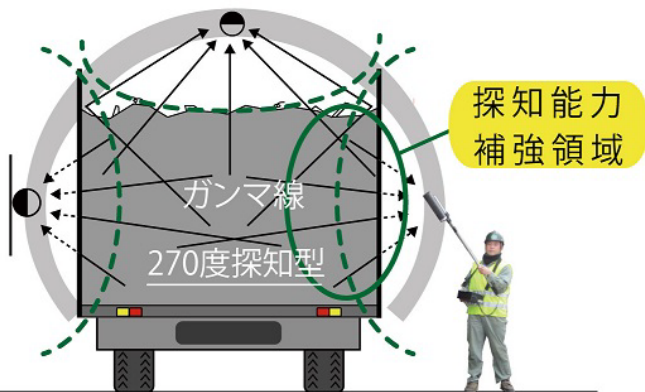


弱点領域解消のハイブリッド型



IPC画面

二基型 + ポータブル統合型



註：○内は追加されたポータブル型の探知結果を示すグラフ。

通常のハンディでは、探知機の探知記録がハンディ内に残らないタイプが大半です。

弊社のポータブル型は、放射線量 (Sv/h) 測定機能や核種特定機能が付いていても、設置型とは別の携帯型 IPC (工業用 PC) の中で探知結果を分析したり、記録していました。

今回、下側の探知機ハウジング横側に、事務所内の IPC から新たに伸ばした LAN ケーブルの接続ポートを増設して、その接続ポートにポータブル型探知機を接続する事により、上・横型の弱点領域を補強することができるようになりましたので、ここ許、既存客の皆様がいち早くご報告申し上げる次第です。

この方式により、下記の利点が生れます。

1. 二基型の弱点領域を補強して、三基型と同じ探知精度が得られる。
2. 納品前のトレーラーの両脇、後部をトレーラーのあおりに沿って至近距離からポータブル型でなぞることにより、BGの高いヤードから出荷するトレーラーが納入先の探知機を鳴らす可能性は限りなく近くなる。
3. メーカーに納品するトレーラーの台数は少ないので、それ程作業量が増える訳ではない。
4. アラームが鳴った場合でも、ポータブル型をトレーラーのあおりに密着させて、放射線量の測定や核種の特定を行う事ができる。
5. トラックの中のスクラップを探知機の近くに降ろし、放射線源の発見、特定を簡単にすることができる。
6. ポータブル型の探知記録は、事務所内の IPC 内に残るので、探知結果レポートを簡単に印刷、又は PDF で PC 内に残すことができる。

このポータブル型は通常、パールの横に取付けます傘立ての様な (円筒状の) 容器の中に入れておき、メーカーへ納入するトレーラーなどの放射能検査の時など、必要がある時だけ使用する事になります。